

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について

平成 18 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を公表したので送付します。

平成 18 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

病害虫名：ゴレンシトリバ(和名仮称) *Diacrotricha fasciola* Zeller, 1851

対象作物名：ゴレンシ

発生地域：沖縄本島

確認の経緯

平成 17 年 11 月 9 日に JA 沖縄北部地区営農指導員によって今帰仁村湧川で採集されたサンプルが沖縄県農業試験場名護支場熱帯果樹研究室に届けられ、翌 10 日にこれらのサンプルが病害虫防除所に持込まれた。防除所に持込まれたサンプルは、ガ類の成虫(11 頭)とゴレンシ被害果実(2 個)であった。

11 月 11 日に、成虫サンプルの一部を農業試験場病虫部さとうきび害虫研究室に提供し、そこから京都府立大学応用昆虫学研究室の吉安裕教授に種の同定を依頼した。同定の結果、11 月 18 日に本種はゴレンシトリバ(和名仮称) *Diacrotricha fasciola* Zeller, 1851 との回答を得た。

平成 17 年 11 月 17 日と 12 月 2 日に北部地区の 3 施設、また、同年 12 月 7 日に南部地区の 4 施設について発生調査を行った。その結果、今帰仁村湧川の 1 施設において多数の成虫と成虫羽化後の蛹、および被害果実を、また名護市中山の 1 施設において幼虫 2 頭と蛹 1 頭(農家によって採集されたもの)を確認した。確認された施設の農家によると、本種は少なくとも 3 年程前から発生しており、ここ 1-2 年ほどは多発しているとのことであった。

形態・生態・分布・被害

形態

成虫の体色は全体的にやや白色で腹部背面は灰白色。前翅中央部から先端部にかけてやや黒ずんだ灰褐色を呈する(図 1)。サイズは前翅開長が約 15mm、体長が約 6mm。葉裏や果実表面上に常に前翅を開いた状態で定位する(図 2)。飛翔はそれほど俊敏でない。

蛹の体色はやや赤みを帯びた乳白色で背面に黄色を帯びた剛刺を多数有する(図 3)。サイズは約 5mm。羽化が近づくと黒味をおびるようになり、成虫羽化後の蛹は銀白色を呈する。蛹はゴレンシの葉裏や果実に垂れ下がるように付着する(図 4)。

幼虫の体色は淡緑色(図 5)から淡桃色(図 6)を呈し、全体に多数の剛刺および刺毛を有する。

生態

農家によると、幼虫は主にゴレンシの花穂に寄生して特に蕾や花、幼果を好んで食害（図7）し、激しい食害を受けた花穂は落下するとのことであった。また幼虫は定位する部位によって体色を変化させ、つまり、花穂では淡桃色を、新葉で緑色を帯びるとのことであった。その他、成虫の行動や幼虫の齢数、年間世代数、発生時期、発育期間、ゴレンシ以外の寄主植物など、沖縄県内における本種の生態については不明である。

分布

沖縄県内における分布は現在のところ北部（今帰仁村湧川と名護市中山）に限られる。国外ではインド、東南アジア、インドネシア、フィリピン、台湾。

被害

調査を行った時期は花穂も無く、また幼虫の発生時期でもなかったため、被害花穂や幼虫の加害状況を確認することはできなかったが、今帰仁村湧川の施設では被害果実を確認した（図8）。これらの被害果実はやや果頂よりの果実表面に多数の小孔がみられたものの、果実内部には深い穿孔跡は認められなかった。よってこれらの被害果実はまだ幼果の時期に外部から食害されたものと思われる。当該施設における樹あたりの被害果率は44.8%（n=13樹，平成17年11月17日）であった。

今後の防除対策

- 1) 春期の開花時期に分布状況調査を行い、本種の詳細な発生域の把握に努める。
- 2) 発生施設では側面、天窓、出入口に防虫ネットを設置し、成虫の飛散防止に努める。
- 3) 発生施設からの寄生部位の施設外持ち出しを自粛する。



図1 ゴレンシトリバ成虫



図2 葉裏に集団で定位する成虫



図3 ゴレンシトリバの蛹
(さとうきび害虫研究室 新垣則雄博士提供)



図4 成虫羽化後の蛹



図5 ゴレンシトリバの幼虫(淡緑色)
(さとうきび害虫研究室 新垣則雄博士提供)



図6 ゴレンシトリバの幼虫(淡桃色)
(さとうきび害虫研究室 新垣則雄博士提供)



図7 花芽を食害する幼虫
(さとうきび害虫研究室 新垣則雄博士提供)



図8 果実における食害跡